

水槽実験によるクロソイ小型種苗の腹鰭拔去標識の有効性

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 中川, 雅弘, 大河内, 裕之
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014517

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



水槽実験によるクロソイ小型種苗の腹鰭抜去標識の有効性

中川雅弘・大河内裕之

同一生産群のクロソイ人工種苗を4 cm (60 日齢), 6 cm (90 日齢), 8 cm (120 日齢), 10 cm (150 日齢) の4 実験区を設けて各100 尾腹鰭抜去し, 2 年間水槽内で飼育した。腹鰭の再生状況および生残状況を実験開始から1, 3, 6, 12 ヶ月後および終了時に観察した結果, 生残率は95~97%, 標識の残存率は4 cm 区が97%であった他は100%であった。標識の持続性および成長, 生残において試験区の違いに差はなく, 4 cm で腹鰭抜去標識を装着することは可能であることが明らかになった。

栽培技研, 29(1), 9-11, 2001